環境対応・3元素系合金メッキに強み

最新設備・技術の新工場で生産

横浜ガルバー

横浜ガルバー（横浜市鶴見区）は1951年の創業以来、メッキ技術で各種インフラに使われる鋼材を錆から守ってきた。

近年はカーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）への取り組みを推進している。省エネや二酸化炭素（CO_2）低減のために最新設備を導入した鶴見駒岡工場（同市鶴見区）は、23年3月に日本産業規格（JIS）H8643の認証工場となった。

耐食性に優れた溶融亜鉛アルミニウム合金メッキ（AZ）は、公共インフラ関連の企業や洋上風力発電などから塩害対策としての引き合いが増加。高口謙一専務は「原材料の高騰や人材不足など課題もあるが、顧客の高耐食・長寿命の要求に応えて情報発信にも力を入れていく」と話す。

溶融亜鉛アルミニウム合金メッキ（AZ）加工

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社